光速を超える恋

キスミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
光速を超える恋

【Ｎコード】
Ｎ９７４５Ｈ

【作者名】
キスミ

【あらすじ】
泥門高校卒業式の放課後、セナはまだ部室にいた。そこへもう一人の訪問者が・・・

（前書き）

セナと鈴音の恋愛モノです

アメフトW杯が終わり、僕たちの高校生活も終わりを告げて
僕は今日、泥門高校を卒業する。

寂しいようで寂しくない、そんな矛盾した感情が今の僕に流れている。
でも部室に来ているって事は寂しいのかな．．．なんだかよくわかんないや

ガラッ

「まだいたのセナ．．．」

「鈴音．．．」

「皆もう帰っちゃたよ」

「わかってる。けどもう終わりなんだなって思うと．．．．．．．寂しくて」

「そうだよね．．．」

ここで数分会話が切れた。しばらくすれば鈴音は帰ってくれるだろうそう信じていたが
鈴音は5分経っても、10分経っても．．．．．．．帰ることはなかった。

「．．．．．．．．．．．．．．．．．．．」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・あのさ」

切り出したのは鈴音だった。

「神龍寺戦の後覚えてる？」

「・・・・ああ・・・　あの後疲れてて・・・・・・　その・・・・　よく覚えてない」

「ははは、やっぱりセナらしいや」

鈴音の笑顔がすごい久しぶりな気がした。僕も自然と笑いが出る

そういえば鈴音は何かと僕に優しかった。

それが当たり前に思っていたあの頃、気づけなかった。もしかして鈴音は僕の事・・・・・

「実はあの後ね・・・・・・」

突然だった。

気がつくと鈴音の唇が僕の唇と重なりあっていた。

「鈴音！？」

「初めてじゃないよ、あの後セナ疲れて寝ちゃったけど・・・・・その寝顔に・・・・・・」

言わんとしている事はわかっていた。

だから言葉が出た

「・・・・・・僕と付き合ってくれないかな・・・・鈴音」

「それあたしの台詞」

「あっ・・・・えーとゴメン」

「もう～一瞬かっこよかったのに～」

「でも、付き合えそうもないかも・・・・」

「えっ！どうして！？」

「あたし留学するんだ。アメリカに」

「・・・・・そんな・・・・いや、僕も一緒に！・・・・」

「来ないで！！」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

鈴音は泣いていた。だがすぐいつもの笑顔の鈴音に戻る。

「セ、セナはセナの進む道！あたしはあたしの進む道！あたしなんかに左右されちゃダメだよ！」

「・・・・・・・・それは」

「えっ？」

「それは鈴音の本心なの？」

「・・・・・・・・・・・・そんな訳ないじゃん・・・あたしだってセナに付いて来て欲しい！・・・・・・でもあたしのせいでセナの将来を変えたくない！」

発言を後悔した。そうだ鈴音が望んでいるわけがなかった。でもだからこそ鈴音の本心を聞きたかった。

「僕の事ばかり考えなくていんだよ！鈴音はもっとわがままで・・・・・・どうして打ち明けてくれないんだ・・・・・」

「・・・・・・今のセナすごいかっこいい」

「えっ？」

「いいよ、一緒にアメリカでアメフトやろう！」

その時の鈴音の笑顔はとても眩しくて、とても身近な暖かさだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9745h/

光速を超える恋

2010年10月10日21時26分発行